

2025年大阪・関西万博 アクションプラン概要説明資料

内閣官房 国際博覧会推進本部事務局

アクションプランとは

- 大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」の具体化に向けた、各省の予算要求や地元からの要望を踏まえた取組、検討状況についてまとめた（※1）もの。
- ①モビリティ、②エネルギー・環境、③デジタル、④健康・医療、⑤観光・食・文化、⑥科学技術等の分野別に整理。
- 昨年末取りまとめのアクションプランは、各省の予算要求や地元からの要望を踏まえた、現時点での取組を取りまとめたものである。
- 今後、事業の進捗や博覧会協会・企業・地元自治体等の提案を踏まえながら、少なくとも半年に1回改訂する。
- 次回の改訂は今春を予定。

（※1）2021年8月の国際博覧会推進本部にて、菅前総理から「未来社会の実験場」の具体化に向け、各府省庁において、予算の確保、新たな制度設計、規制改革など、必要な措置を実施していくことが重要であり、政府一丸となって推進していくため、アクションプランを年内に取りまとめるよう指示あり。

No.1_モビリティ

- 次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト（経済産業省）、空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備の推進（国土交通省）
- 自動配送ロボットのサービス提供（経済産業省）
- ロボットフレンドリーな環境の実現（経済産業省）
- 電動車の活用拡大（環境省・国土交通省）
- MaaSなどの新たなモビリティサービスの推進（国土交通省）
- 自動運転の一層の推進（デジタル庁、内閣府、警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省）

No.2_エネルギー・環境

- 水素発電技術の実証等（経済産業省）
- アンモニア発電技術の実証（経済産業省）
- 2030年度目標及び2050年カーボンニュートラルに向けた脱炭素先行地域の実現（環境省）
- CO₂の分離・回収技術の実証（経済産業省）
- CO₂排出削減・固定量最大化コンクリートの実証（経済産業省）
- バイオマス由来の生分解性容器の循環処理・資源化に関する実証（経済産業省）
- 内航船の革新的な運航効率化に関する実証（国土交通省・経済産業省）
- 行動変容を促すナッジ実証（経済産業省）
- 資源循環に関する実証・展示（経済産業省）
- 次世代型太陽電池の開発推進（経済産業省）
- サーキュラーエコノミーの実現（環境省）
- 大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現（環境省）
- 建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業（環境省）
- 木材利用拡大の促進（農林水産省）

No.3_デジタル

- Beyond 5G ready ショーケースの実現（総務省）
- 多言語翻訳技術の高度化（総務省）
- 地域データの可視化によるデータ連携・データ利活用の推進（内閣府地方創生推進事務局）

No.4_健康・医療

- 医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業（経済産業省）
- 優良なアイデア・事業の審査への参画（ヘルスケアビジネスコンテストの開催）（経済産業省）

No.5_観光・食・文化

- DXの推進による観光サービスの変革と観光需要の創出（観光庁）
- 大阪・関西万博の機会を活用した訪日プロモーション（観光庁）
- 日本文化の魅力発信等の拡充（文部科学省）
- 未来社会・フューチャーライフに向けた被災地の復興や食文化の情報発信（復興庁・経済産業省）
- 日本食文化・農泊体験の発信（農林水産省）
- 増大する食料需要等に応える代替肉・代替飼料などのフードテック新事業創出の推進（農林水産省）
- 食品ロス削減の普及啓発（消費者庁）
- 「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた持続可能型農業の実証モデル構築（農林水産省）
- 月面等における長期滞在を支える高度資源循環型食料供給システムの開発（農林水産省）
- 食品ロス削減に向けた飲食物の食べきり、フードシェアリングの徹底等の運動推進（農林水産省）
- 日本産酒類の情報発信（財務省）
- クールジャパンの総力を結集した機運の醸成と戦略の改定（内閣府知的財産戦略推進事務局）

No.6_科学技術等

- 情報統合研究事業 ガーディアンロボット（次世代ロボットの研究開発）（文部科学省）
- 防災DXを活用した博覧会会場での実証試験（文部科学省）
- リモートセンシング技術による高精度データの収集・分析・配信技術の開発（総務省）
- 被災地から生まれる未来社会に向けた最新技術の情報発信（復興庁・経済産業省）
- 緊急事態対処における無人航空機の活用及び有人機・無人機連携技術の研究（警察庁）
- 海洋関係の取組発信（内閣府総合海洋政策推進事務局）
- 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局）
- ムーンショット型研究開発制度（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局）
- スマート×グリーン技術の実証（農業）（農林水産省）
- スマート×グリーン技術の実証（林業）（農林水産省）
- スマート×グリーン技術の実証（水産業）（農林水産省）

●次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト（経済産業省） 空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備の推進（国土交通省）

⇒大阪・関西万博において、遊覧飛行や二地点間移動など、空飛ぶクルマの活用と事業化を目指し、研究開発、実証を行う。また、大阪・関西万博での空飛ぶクルマの実現に向けて必要な機体の安全基準をはじめとする制度や枠組の整備等を進める。

・令和4年度概算決定額：2,930百万円の内数（経済産業省計上予算）

・令和4年度概算決定額：29百万円（制度整備のための調査費用）（国土交通省計上予算）

（今後のスケジュール：経済産業省）

2021年度～：大阪・関西万博×空飛ぶクルマ実装TFにおいて、空飛ぶクルマの飛行実現に向けた議論

2022年度～：ドローンや空飛ぶクルマの運航管理に係る研究開発

2023年度・2024年度～：研究開発、実証

2025年度：大阪・関西万博においてデモンストレーションを実施



（今後のスケジュール：国土交通省）

2021年度：空飛ぶクルマに関する試験飛行のガイドラインを策定（試験飛行に関する許可基準を明確化し、事業者や地方公共団体等へ共有する）

「空の移動革命に向けたロードマップ」を改訂

2021年度～：「空の移動革命に向けたロードマップ」に基づき、機体や運航の安全基準、操縦者の技能証明基準などの制度整備を引き続き検討。

低高度における安全・円滑な航空交通の実現を目指した取組を推進

●多言語翻訳技術の高度化（総務省）

⇒「グローバルコミュニケーション計画2025」を推進し、AIにより会話の文脈や話者の意図を補完した実用レベルの「同時通訳」を実現するための研究開発を実施するとともに社会実装を推進していくことで、世界の「言葉の壁」を解消し、グローバルで自由な交流を実現する。

・令和4年度概算要求額：1,417百万円
（多言語翻訳技術の高度化に関する研究開発）

（今後のスケジュール）

～2024年度：研究開発



●CO₂排出削減・固定量最大化コンクリートの実証（経済産業省）

⇒大阪・関西万博において、新たに開発するCO₂排出削減・固定量最大化コンクリートの実証試験に加え、標準化等に必要となるCO₂固定量等のデータ取得を実施することで、更なる普及を目指す。

令和2年度第3次補正予算：2兆円の内数（グリーンイノベーション基金）

（今後のスケジュール）

2021年度～2024年度：実験室レベルの試験等を実施し、要素技術の開発

2025年度：大阪・関西万博等を通じて品質とCO₂固定量に関するデータ取得



●大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現（環境省）

⇒瀬戸内海関係府県・団体等と連携し、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に向けた先進的な海洋プラスチックごみ対策等の取組を国内外に広くPRする。

令和4年度概算決定額：10,268百万円の内数

（今後のスケジュール）

2021年：瀬戸内海における海洋プラスチックごみ対策の優良事例PR



● D Xの推進による観光サービスの変革と観光需要の創出（観光庁）

⇒旅行者の体験価値向上、消費機会の拡大、来訪意欲増進等を図るため、万博の機会も活用し、デジタル技術と観光資源の融合等（D X）により新しい観光コンテンツを創出することで、観光サービスの変革と観光需要の創出を目指した取組を推進する。

令和4年度概算決定額：781百万円



顔認証技術を用いた
手ぶら観光の実現



XR技術を用いた地域観光バスツアー

● 増大する食料需要等に応える代替肉・代替飼料などのフードテック事業創出の推進（農林水産省）

⇒代替肉・代替飼料や3Dフードプリンターなど、農林水産・食品分野で実装が期待される先端技術を活用した製品の展示を通じて世界に日本の技術力を発信することで、国内外の関心を高め、フードテック等を活用した新たな市場の創出に向けた取組を推進する。

令和4年度概算決定額：30百万円（新事業創出・食品産業課題解決調査・実証事業のうちフードテックを活用した新しいビジネスモデル実証事業）

（今後のスケジュール）

2021年度～：フードテックを活用したビジネスモデルの実証を支援

2022年度：フードテックの振興、普及に関する課題解決に向けた議論を行っているフードテック官民協議会において、フードテック推進ビジョンとロードマップを策定



3Dフードプリンター



発芽大豆素材を用いたタコス